



さわいい

ひろ ふみ

松原市長

宏文

松原の未来を考える会
2011年1月号

宏文STYLE sawaing

明けましておめでとうございます。皆様には、平成23年の新春をお健やかに迎えのことで、心よりお慶び申し上げます。早いもので、就任して1年と7ヶ月が過ぎました。この間、行財政改革や地域医療の復活、更には松原市の魅力を発信し商工業や農業の発展等、多くの

新たなまちづくりを実施してまいりました。また、『**健康と安全**』を大きなテーマとして、まちづくりの指針となる『**第四次総合計画**』の策定にも取り組んでまいりました。とにかく『**やることはいくらでもあります!**』既成概念にとらわれずスピードをもって、ただひたすら走り続けてまいりました。ここまで頑張れたこと、そして沢山の成果を上げることができたのも、偏に皆さんの支えがあったからであります。ご支援いただいた皆様、後援会や各種団体の方々、更には本市の職員といった全ての方々に感謝申し

上げます。景気や社会状況等まだまだ課題が多い中で、あらゆる問題を先送りすることなく全ての課題にスピードをもって取り組み、今後も『**市民との協働**』を理念に“まちづくりに挑んでまいります!”今後とも宜しくご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます!

本年が、皆様にとって幸多き年となりますことをご祈念いたしまして、新年のご挨拶にかえさせていただきます。

松原市長 澤井宏文

日本一「健康」で「安全」な まちをめざして!

安心・安全のまちづくり

●保育所待機児童の解消

民間保育所整備の充実による保育所定員数の増

	20年度	22年度
定員	1620名	1790名
待機児童数	22名	0名

●すべての公立幼稚園で預かり(延長)保育を実施

●妊婦健康診査の助成額を増額

●市役所に「健康なんでも相談室」を設置(常設) 大阪府で初 無料相談

●20歳代からの乳がん検診の助成 大阪府で初

●子宮頸がんワクチン、ヒブワクチンの2種類の接種助成 大阪府で初

さらに、肺炎球菌ワクチンの接種助成を検討

●阪南中央病院「社会医療法人」の認定取得

「小児救急医療」「周産期医療」に対応

●小児科医療の回復(休日・平日の小児科診療)

●年末年始の医療体制の確立

●インフルエンザウィルスの除去に効果的な空気清浄機を全ての 公私立幼稚園、保育園、小学校等に設置

●市内4駅周辺に街頭防犯カメラを設置 大阪府下の市で初

街頭犯罪抑止力のアップ(昨年より184件の大幅減)

●地域の防犯対策として、町会等への防犯カメラの設置補助 政令市を除き大阪府で初

●救急安心センター(#7119)事業に参入

24時間、365日体制で、適切な医療機関の案内や救急車の出動を要請

●全小中学校耐震補強事業の100%完了 大阪府で初

●全中学校に「学習クラブ」システムを導入

●子どもの学力・体力の向上

学力向上フォーラムの実施、オリンピック選手などのトップアスリートによる小学生参加型の「キッズドリームスポーツチャレンジ」を実施

●障害者の雇用の促進と就労の支援を推進

学市民健康プラザの清掃業務を通所授産施設を持つ社会福祉法人に委託
就労継続支援事業として社会福祉法人に市役所食堂「キッチンな」の運営 全国で初

※尚、マニフェストの達成状況は91%となっております(着手中のものを含む)

【平成22年度中・就任後1年6ヶ月で】



キラリ★松原
主催：まはらな



市民
の皆さんが健康で
安全に暮らせるよう、
就任後スピードをもって取り
組んできた、
まちづくり(主なもののみ)
をご紹介します!



市民協働のまちづくり

●市民活動サポートサロンの設置

●沖縄と松原の子どもたちによる現在版組踊絵巻(沖縄ミュージカル)の実施

●美化キャンペーンの参加者を拡大

これまでの町会・各種団体に加え、児童生徒や保護者にも参加を呼びかけ、市民3世代での取り組み

●市長定例記者会見を開催

年4回の定例市議会の前に、議案並びに施策等について記者会見を開催

●予算編成過程の公表

●人権政策推進事業の推進

将来を見据えたまちづくり

●松原商工会議所・阪南大学との包括連携協定の締結 新たな松原ブランドの創出

●魅力あふれる公園整備

北新町大池公園の開園・三宅東公園の工事着手

●地域ブランドの創出

マスコットキャラクターの公募、「マッキー」の制定
高齢者の愛称の募集、「元希者」に決定
松原の食材を使用した地域ブランド「鴨カレー」の開発

●松原がんばる市民応援基金の設置

スポーツ、芸術、文化の分野において顕著な成績や全国規模以上の大会等に
参加する団体・個人に応援金を交付

●まつばらマルシェの開催(大阪ミュージアム構想へ登録)

松原の食品や農畜産物を紹介・販売する地産地消フェアを開催

●地産地消の推進

大阪中河内農協農産物直販所のリニューアルオープン
学校給食に地場農畜産物の使用拡大



自主性と自立性のあるまちづくり

●市の借金の主である事業債残高 順調に減少(毎年約12億円の減) 293億6千万円(H10年度)⇒171億1千万円(H21年度)に

●市長、職員の自主的カットで、毎年4億円の人件費削減 市長就任後、人件費の縮減を一番に取り組む 市長20%、副市長・教育長15%、部長級10%、以下役職に 合わせた自主的カット。但し、新入職員は0%

●行財政改革実施計画(H17~H21年度)の推進

(H21年度で効果額5億3千万円、当初予定より1億4千万円の効果額増)

●市職員を60人削減(平成21年度) 2億3千万円の効果

●新行財政改革の断行(H22~H24年度)3か年で34億円の効果予定

●市民視点によるサービスの改革

休日窓口サービスの開設

●柔軟な組織の編成、能力に応じた職員の配置

これまでの慣例を破棄し、若い職員、有能な職員の部長級や管理職への登用

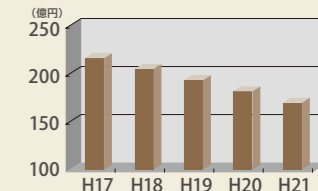
●新たな時代に対応した第4次総合計画の策定

税の増収・雇用創出・人口増加策等々

●まちの活力の基盤となる産業の活性化

●大阪府からの権限委譲の受入れ

●市内経済の活性化のため元希者(げんきもん)商品券の発行



新年あけましておめでとうございます。



2011年の新春をご家族お揃いでお迎えになられましたこと、心よりお祝いとお慶びを申し上げます。平素は松原商工会議所運営に格別のご理解とご協力ご支援を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。市民の期待のもと澤井松原市長が誕生・就任されてから早や一年半になろうとしております。私は、変化時代は挑戦時代でもあると思っております。先人の皆様が今まで築いて来られました大切なものは残し、改革しなければいけないものは思い切って改革し、さらに時代環境が求めている新しいものには思い切って挑戦していくことが、豊かで楽しく力強い松原市を作り上げていくことになるでしょう。

澤井市長は就任以来、農工商連携にも力を注いでいただき、産官学による地域ブランド構築に大きなご尽力を賜り、松原市のみで利用出来る元希者商品券の立案をはじめ、昨年11月には松原マルシェを開催し、人が集まり、楽しみ、喜び、賑わいの町・松原市を全国に向けて発信することが出来たのではないのでしょうか。

今後も、松原市の発展のためにプロ意識と夢のある人材を生み出し、変化し続ける時代の問題点を乗り越えて、光り輝く松原市を作り上げていただくことをご期待致しております。

今年一年が皆様にとって、健康で幸多き年になりますようお祈り申し上げます。

松原商工会議所 会頭 川西 修

新年に寄せて



2011年の新しい年を松原市民の皆さんと共に迎えることができ嬉しく思います。

そして、自分の心の中で「今年も進化するぞ!」と、言い聞かせている私です。

昨年9月に松原市教育委員長に就任させていただいて以来、松原市の多くの方々と接し、多くの未来を背負う子どもたちとも接することができました。そんな中で改良点が見えていても、人というものは今を変えることはなかなか難しく動き出さなくても、どうしても現状を引きずってしまうものです。しかし松原市の皆さん、今年こそは共に良い方向が分かっている現状から脱皮できない自分を捨て、今を変える勇気を持つてはありませんか。

澤井市長はフットワークも軽く、自ら足を運び自ら松原市をより良くしようと日々奮闘されております。今年は更に市長の若さと実行力を前に出し、良い方向に向かって先頭を走ってくださることを願っています。市長とは、先頭に立ちすべての松原市の問題を最初に真っ向から受けとめる人です。市長の若さと、その行動力で2011年は「変身、松原!」の総指揮官としての奮闘を心からご期待いたします。

松原市教育委員長 井村 雅代

“新たな”『松原ブランド』の創出!!

松原市による取り組みや、松原商工会議所・阪南大学との、産・学・官の連携により松原市の更なる魅力を全国へ発信してまいりました。

ご当地ナンバープレートの導入

4月より、ミニバイクなどに交付するナンバープレートを市の頭文字のMをかたどり、マスコットキャラクターをあしらったご当地ナンバープレートを導入します。盗難防止ネジと一緒に交付することにより、市の魅力発信と同時に街頭犯罪の抑止につなげてまいります。



松原発『合鴨カレー』デビュー(松原ブランド第1号)

松原商工会議所と市食生活改善推進協議会・市の管理栄養士で、松原産の合鴨肉と有機野菜を使った『合鴨カレー』を考案し、レトルトカレーとして商品化しました。誕生した松原ブランド第1号の全国販売を目指しています。



大学との各種情報の相互提供による情報発信・地域交流

阪南大学との包括連携協力により、大学主催の市民向け講座や市民参加可能なシンポジウム等の情報を市の広報誌にて掲載。多くの市民参加により地域交流が広がっています。

